

2026年4月入学岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【2月募集】入学試験問題

講座 (学修分野)	国際比較経済(グローバル経営・経済)、 経済理論・統計、政策科学、経営学
専門科目	ミクロ経済学

以下の問1、問2の両方に解答しなさい。なお、問1は解答用紙の第1ページと第2ページに解答し、問2は解答用紙の第3ページと第4ページに解答しなさい。導出過程も書くこと。

問1 財Xと財Yを消費する個人を考える。財Xと財Yの消費量をそれぞれ x と y としたとき、この個人の効用は $u(x, y) = x^a + y$ とする ($0 < a < 1$)。財Xと財Yの価格をそれぞれ p と1とし、個人の所得を $I > 0$ とする。

- (1) この個人の効用最大化による財Xと財Yの消費量を求めなさい。両財の消費量は正とする。
- (2) 財Xの価格が p から p' に下がった時の個人の消費の変化を図に書き、代替効果と所得効果を図に書き入れなさい。図では、財Xを横軸、財Yを縦軸にとること。
- (3) 財Xの所得弾力性を求めなさい。

問2 財1、財2という二つの差別化財の需要関数が、それぞれ、

$$D_1(p_1, p_2) = 40 - 2p_1 + p_2, \quad D_2(p_1, p_2) = 40 - 2p_2 + p_1$$

[p_1 : 財1の価格、 p_2 : 財2の価格]

で示されるものとし、財1を企業1が、財2を企業2が供給する。各企業の限界費用は一定でどちらも10であり、固定費はどちらも0であるとする。

- (1) 両企業は同時に価格を選択し、各企業は相手企業の財価格を所与として自己の利潤が最大になるように自己の財価格を決定するものとする。ベルトラン均衡における両企業の財価格はそれぞれいくらか求めなさい。
- (2) (1)で求めたベルトラン均衡における企業1の生産量と利潤はそれぞれいくらになるか求めなさい。

以上